

## 2013年東京都高等学校駅伝大会 結果報告

総合成績

参加校 115校

順位 26位 (①20位→②18位→③21位→④24位→⑤22位→⑥26位→⑦26位)

タイム 2:24'11 桐朋新記録樹立!



1区 10000m 中村 太紀 (高2) 区間タイム32'42 区間順位 20位



1区を走った中村です。駅伝が終わった瞬間はなんだか良くわからない気持ちでしたが、少し時間がたって色んな思いが滲み出ています。駅伝でなんだろうな、と考えさせられました。僕たち中長距離14人は夏からで駅伝チームとしてやってきました。僕は試合というもの、当日どうこうよりも、もうその準備段階から始まっている、と思っています。つまり都総体で例えるなら、極端に言えばこの冬からすでに来年の“都総体”はスタートしているということです。そういうくくりでいくと、夏から昨日までの約3ヶ月間が、まさに“都駅伝”だったわけです。当日、誰が、どういう走りをしたかよりも、むしろこれまでみんなそれぞれがどういう思いで練習してきたか、が今回の“都駅伝”なのだと思います。自分の走りの中には間違いなく14人分のパワーがあって、それはタスキを通じて繋がって行きました。誰が欠けてもいけなかったんだと思います。そういう意味で、全員で戦った、という印象が強く残った駅伝でした。このメンバーで“駅伝”ができたことに感謝の気持ちでいっぱいです。このチームで襷を繋ぐことはもうないかもしれませんが、引退の最後までこのチームで戦っていきたくて改めて思われる駅伝でした。最後に、他の

ブロックのメンバー、先生方、OBや保護者の方々の応援は本当に力になり、走っていて幸せでした。ありがとうございました。その恩返しができるように、来シーズンに向けがんばります。

2区 3000m 市川 尚樹 (高1)

区間タイム 9'41 区間順位 22位



暑くもなく寒くもなく風もなく正にベストコンディションの中、今年の駅伝は開催された。僕は今年で駅伝は4年目。しかも、2年前と襷をもらう人も渡す人も一緒だった。あの時はチームとしての目標は達成できなかったもので、なんとしても今年リベンジしたかった。結果的には無事桐朋記録樹立ということでとりあえずホッとした。自分の話になってしまうが、今年ものすごく調子が悪かったので、駅伝で最低限の走りをできたことは素直に嬉しかった。たが、もう一つの目標として掲げていた20位という目標は残念ながら達成できなかったもので、来年もっといい順位で帰ってこれるようにしたい。

最後になりましたが、わざわざ荒川まで駆けつけてくれた保護者の方、OBの方、応援してくれたみなさん、支えてくれた先生方はありがとうございました。

3区 8107.5m 比良田 芳城 (高2)

区間タイム 27'43 区間順位 29位



3区を走った比良田です。まず応援してくださった方、ありがとうございました。3区は2番目に長い区間です。最初にこの区間を僕が任されると決まった時、とても不安な思いがありました。僕は去年の駅伝で8kmは経験していました。でも九月の新人戦まで中距離種目をやっていた僕は、他の人と比べると練習で走った距離は明らかに足りていなかったからです。駅伝に賭ける思いはみんなと同じくらい僕も持っていました。できる限りみんなに追いつこうと日々走りました。しかし十月に僕の不注意で一週間程度の間走るのを医者に禁止されてしまいました。そこで僕は もう駅伝メンバーに入れないんじゃないかと思いました。それでもチームのみんなは僕が思っている以上に僕の事を信頼してくれていて、こんな僕に三区を任せてくれました。この時僕は改めて駅伝は一つのチームで戦っているんだという事に気づかされました。そしてそれから11月3日までは一瞬でした。駅伝当日はとて心落ち着いていました。一人じゃない、皆で戦ってると思えたからです。

みんなが走り終わり、最終区の青木がゴールをした時、僕ら高2にとって最後の高校都駅伝は桐朋記録更新という目標をチーム皆で達成し、少なくとも僕たちは駅伝と陸上の楽しさを改めて実感しました。春の都総体にむけてまた今日から頑張りますので、応援よろしく願います。

4区 8087.5m 郡谷 拓実 (高2)

区間タイム 28'41 区間順位 36位



こんにちは、高2の郡谷 拓実です。今回僕は駅伝で4区8kmを走らせていただきました。自分は今回あまり良い走りが出来な かったんですが他の人が良い走りをしてくれたので、桐朋新記録を出せたと思っています。駅伝はチームで走る種目です。今回チームで走れた駅伝だと感じました。振り返ると、みんなで本格的に駅伝に向けてスタートしたのは、夏でした。今年の夏は去年の夏よりも多くの距離をみんなで行き込みました。みんなで色々話し合い工夫をしながら、暑い夏を乗り切りました。そして、夏の終わりに中長距離のみんなでミーティングをして、どこを走りたいかということ、桐朋新記録を出すということ話し合いました。それから、記録が他の人より良い人は駅伝メンバーにはほぼ確定しました。そして空いたのが5区と6区でした。ここの2つの区を残りのメンバーで争うことになりました。そして、日体大記録会、世田谷競技会の記録、普段の練習を参考にして残りの2区の駅伝メンバーと補欠のメンバーが決まりました。そして、もう1度ミーティングをして、各々のメンバーが出せる記録、そして総合で何分台を出すのかということ話し合いました。今回のチームはとても雰囲気良く、駅伝に近づくにつれて、さらに良くなっていきました。僕は桐朋新記録を出せるとしていました。駅伝直前に1度河川敷に試走に行って雰囲気を確かめました。そうしてテストを終え、駅伝当日をむかえました。

自分の区までの順位はとても早かったのですが、走った結果、順位を落としてしまいました。しかし、その後の区の選手が2人抜いてくれました。こういうところが駅伝は1人の走りだけで決まるものではないということを感じました。最後に、応援してくれた皆様、サポートしてくれた皆、とても力になりました！ありがとうございました！

5区 3000m 村田 達洋 (高2)

区間タイム 10'06 区間順位 23位



5区を走った村田です。皆さん、おそらく似通った文章を書かれていますので(笑)、自分は少し違った観点から、今回の駅伝についての感想を書いてみようと思います。2013年の11月3日は自分にとって、どういう一日だったのか、自分はあまり文章が上手ありませんが、今でも鮮明に覚えているあの日のことを出来るだけ丁寧に書いてみようと思います。

11月3日。早朝、自分は布団から起きて、支度を整えていました。いつも自分は試合前になると、緊張してあまり眠れずに朝を迎えるのですが、前日まで試験があり、それで疲れていたせいなのか、よく眠れ、すがすがしい朝を迎えることが出来ました。「よし、今日はいける気がする。」となんとなく思い、いつも通り朝食を食べて、家を出ました。電車の中で、自分は、毎日書いている練習日誌を読み直しながら、駅伝に向けて本格的に動き始めた夏からの練習の記憶が、自分の頭の中に蘇ってきました。それと同時に、「いよいよ本番なんだな。」ともう一度気が引き締まったのを覚えています。テントで駅伝メンバーと合流したのですが、皆さん、さして緊張している様子でもなく、いつも通り冗談を言い合いながら、自分は心の中で「頼もし

い仲間だな。これなら大丈夫だ。自分は皆の足を引っ張らないように、いつも通り頑張るだけだ。」と意気込んでいました。

10時、スタートの号砲とともに自分はウォーミングアップを始めました。前日の天気予報が外れて、天気はとても良く、風も弱く、走るにはとても良いコンディションでした。一区の中村君がどうなっているのかとても気になっていましたが、ちょうど5km地点で、彼がいつも通りのとても綺麗なフォームで、自分の前を疾走していくのを見て、「ああ、これは大丈夫だ。」と安心していました。11時38分、スタートから1時間38分後、ついに自分は4区の郡谷君から襷を受け取りました。ちょうど20mくらい前に選手が2人走っており、それを見て自分は、その2人の選手を抜くことが自分のすることだと思いました。ちょうど2kmを通過する時に、前の2人の選手の様子を見て、仕掛けるなら今だと思い、引き離しにかかりました。1人がついてくるのに気が付き、若干不安にも駆られましたが、心の中で、最近覚えたことば、「Stay the course（最後まで諦めないで）」をなぜか何度も唱えながら、必死に走り続け、なんとか追いつかれずに6区の田島君に襷を渡すことができました。走り終わった後、自分はクールダウンもせず、そのまま応援に向かいました。果たして今、何位なのか。目標の桐朋記録更新は達成できるのか。このことが気になって仕方ありませんでした。自分はちょうどゴールまでラスト500mのところまで応援していたのですが、その前を最終区の青木君が走り抜けていくのを見た後に自分の時計を何度も確認して、「これはいける。」と思いながら、自分もゴール地点に向かって走り出しました。そして、スタートから2時間24分11秒後、ついに7人が42.195kmを襷でつなぐことが出来ました。総合順位こそ26位で、目標だった20位以内にはとどきませんでした。桐朋記録は約1分40秒ほど更新することが出来ました。自分の区間タイムも大したことはありませんでしたが、それでも自分達がこれまでやってきたことが、チームの結果として表れたので、充実した感情が得られました。

たぶん皆さんも自分と同じような感情だったと思います。

自分にとって、この駅伝はあらためて努力することの重要性を教えてくれたものとなりました。あの時、心の中で無意識に何度も「Stay the course」と唱えたのは、そのことを自分自身に気づかせようとしたからなのかもしれません。これから自分は色々な困難に直面すると思います。けれど自分は諦めずに努力し続けていきたいです。「Stay the course」ということばとともに... 格好つけてすみません。

あと、最後に、今回の駅伝をサポートしてくれた皆さん本当にありがとうございました。

6区 5000m 田島 慧之介 (高2)

区間タイム 17'51 区間順位 42位



こんにちは。6区を走った田島です。僕はこれまで中学、高校合わせて一度も都駅伝に出たことがありませんでした。初めて走るため、今回の駅伝は楽しみであるのと同時に、不安やプレッシャーのようなものがいつものレースよりも大きくありました。僕は中学の頃から怪我が多くいつも思うように走れませんでした。高1の時はわずか2レース程しか走れず、もちろん都駅伝の補欠にも入れませんでした。昨年の都駅伝の日、先輩や同級生が走っているのを見て駅伝というものに強く憧れ、とても悔しかったのを今でも覚えています。しかし、その悔しさがあったからこそ、この夏の苦しい練習にも耐えることができました。今回駅伝メンバーに入れたことも、桐朋記録を更新できたこともこの悔しさがあったからこそものだと思います。また、今回の駅伝はいろんな人達の思いを背負って走りました。短距離、跳躍ブロックの人たち、応援してくれた中学生や保護者の方々、これまでたくさんの指導をしてくださった先生方、そしてなにより一緒に駅伝というものを目指してきた中長距離14人全員の気持ちを胸に走らせてもらいました。このようなたくさんの人達の応援、思いというものが走っている僕を後押ししてくれたと感じています。

結果として桐朋記録を更新できたことは本当に嬉しく思います。しかし僕個人としては今の自分の実力に満足していません。これからの冬期練で来年のシーズンに向けてしっかりと練習を積んでいきたいと

思います。応援してくださった方々、ありがとうございました。この14人の中長距離メンバーで戦えたことを誇りに思います。

7区 5000m 青木 孝輔 (高1)



区間タイム 17'27 区間順位 35位

7区を走った高校1年の青木です。今回、チームとして桐朋記録を更新することができて嬉しく思っていますが僕個人としては悔いの残るレースでした。その原因は色々な「甘え」だと思います。まずはチームへの甘え。今年のチームは全体的に安定感があり、そこにしっかりエースという軸もありました。僕はそこに頼りすぎてしまいました。また、襷を受け取る直前に「どんなに悪くても桐朋記録は出るだろう」と、考えてしまいました。これも今考えると「甘え」です。

今回の駅伝を通じて、「限界を作らない」という当たり前のことがどれ程難しいことか改めて実感し、また、「速さ」と共に「強さ」も必要だということを考えさせられました。しかし、チームとして喜ぶべきところと個人での反省すべきところをしっかりと分けて次に活かしていければと思います。最後になりましたが、応援してくださった方々、サポートしてくれた人達、そして先生方ありがとうございました。

